

鹿市医郷壇



上句のインパクトが強いと目を引きます。
句は一説明解を旨としています。

五客一席 紫南支部 二軒茶屋電停
(唱) 塩を減らすカルテが叱つ

五客一席 上町支部 吉野なでしこ
(唱) 河豚刺しなんだ丸で食せ損

478 横口一風選
兼題「味(あつ)」
天

こん味じや慣れ親しんだ母(かかん)味
(唱) 幼少(ちから)け頃をばまた思め出せつ

帰省して久し振りに母さんの御馳走を
食べ、長いこと都会の味に慣れられた口
は、母さんの素朴な味に飢えていました。
一口食べてこの味だと、子供のころから
食べ慣れていたお母さんの味を思い出
しました。

この句の「こん味じや」の上句の出だ
しが効いています。「こん味じや」と「」
と、感嘆符を付けたいところですが、郷
句には付けないのが原則です。

今回の兼題「味」を食べ物の味と考え
ていう句ばかりでしたが、唯一この句は
舌で捉える味では無かつた。発想の広が
りで効を奏した句で、流石です。

清滝支部 鮫島爺(おじ)児医
味なこつ万葉集から採つ令和
(唱) 日本人の胸(こゝろ)ねひちやつ合(あ)
今まで中国の文献から採用していた
らしいが、今回は万葉集から引用したと
か、しかも大宰府の觀梅に由来するとか。

今回もこの句ばかりでした。唯この句は
舌で捉える味では無かつた。発想の広が
りで効を奏した句で、流石です。

地
清滝支部 鮫島爺(おじ)児医
味なこつ万葉集から採つ令和
(唱) 日本人の胸(こゝろ)ねひちやつ合(あ)
今まで中国の文献から採用していた
らしいが、今回は万葉集から引用したと
か、しかも大宰府の觀梅に由来するとか。

今回もこの句ばかりでした。唯この句は
舌で捉える味では無かつた。発想の広が
りで効を奏した句で、流石です。

五客一席 上町支部 吉野なでしこ
(唱) 河豚刺しなんだ丸で食せ損

五客四席 伊敷支部 谷山五郎猫
(唱) 間違(まち)げち言(ご)わじ我(わが)様(さま)あ平(へい)然

五客五席 酱油屋(さけや)孫(まご)一
(唱) 不味(ま)じ言(ご)たやレシピ通(とお)いち言(ご)詠(よ)

人
印南 本作
味めどち何(なん)でん食(く)もつ味(あつ)音痴(あき)

味(あつ)音痴(あき)がそんなに鋭い訳ではないが、自
分の口に合えばそれが御馳走です。

何を食べさせても、おいしい、おいし
いと食べても、おいしばれば、作った方は張り
合いがあります。味に敏感で文句ばかり
言われるよりも、よっぽど作り甲斐が
あるのでは。この人は幸せな方なので
しょう。

五客五席 清滝支部 鮫島爺(おじ)児医
味め料理(じゅりょう)嫁(まご)ん愛情(こいじょう)が隠(か)し味(あ)

(唱) 大概(たまに)な食堂(じゅうどう)あ足許(あしも)て寄せ(よ)

五客四席 伊敷支部 谷山五郎猫
(唱) 間違(まち)げち言(ご)わじ我(わが)様(さま)あ平(へい)然

五客五席 酱油屋(さけや)孫(まご)一
(唱) 不味(ま)じ言(ご)たやレシピ通(とお)いち言(ご)詠(よ)

秀逸

清滝支部 鮫島爺(おじ)児医

高段者(なだんしゃ)味(あつ)な一手(いっしゅ)を度々(はいはい)と打つ
生物(なまもの)も産地(さんち)で食(く)へば美味(うまい)め味(あつ)

大概(たまに)な料理(じゅりょう)空(す)腹(はら)じゃれば美味(うまい)も食(く)

焼酎(やきしゅ)飲(く)んも場所(ばしょ)が違(ちが)えば味(あつ)じや変わ(わ)

小児(こじり)ん薬(やく)味(あつ)が悪い(わるい)から飲(く)まじ吐(ぬ)

下手(へた)な句(く)も良(よ)か唱(うた)が付(つ)たや味(あつ)

下(しも)手(て)な句(く)も良(よ)か唱(うた)が付(つ)たや味(あつ)

上町(じょうまち)支部(ぶしょ) 吉野(よしの)なでしこ
伊敷(いふ)支部(ぶしょ) 谷山(やま)五郎(ごろう)猫(ねこ)

減塩(げんえん)ぬ味(あつ)が薄(うす)かち小(ちい)言(ご)

趣味(しゅみ)の料(りょう)理(り)味(あつ)じやまだまだんお嬢(じょうだん)様(よう)

味(あつ)占(うづ)うつ食(く)卓(ざ)い上(あが)つ宅(じやく)ん猫(ねこ)

良(よ)藥(やく)が苦(くる)げ言(ご)が試(こころ)し飲(く)んでみ

良(よ)藥(やく)が苦(くる)げ言(ご)が試(こころ)し飲(く)んでみ
つけ込(こ)だや良(よ)か味(あつ)が出(で)た革(かわ)バッグ

醤油屋(さけや)孫(まご)一

薩摩(さつま)郷(ごう)句(く)鑑(かん)賞(しやう)
薩摩(さつま)狂(きょう)句(く)曆(れき)
三條(さんじょう)風(ふう)雲(うん)児(こ)著(あつ)から
鼻(はな)づまゆ(づまゆ)奥(おく)すい通(とお)えた卸(おき)大(だい)根(ね)

田代(ただい) 苦瓜(くわ)

ぼつぼつ大根(だいこん)の季節(きせつ)である。もつとも
この「じろほとんど」一年(いちじゅう)栽培(さいばい)される
ので、いつでも食べられるけれども、や
はりこれからの大根(だいこん)が、ほんとにおいし
いと言(い)えるのではあるまい。

もちろんいろんな食べ方(かた)はあるけれど
も、この句(く)は大根(だいこん)を詠(よ)んだもの。
ツーンと鼻(はな)をさすような辛(から)みがあつて、
口(くち)に入(い)れてからあわてたのかも知(し)れない。

それを、つまっていた鼻(はな)に、奥(おく)まで穴(あな)

があいたと表現(ひげん)したところが面白い。

出稼(でかけ)つ(の)亭(てい)主(し)てがつ(の)案(あん)山(さん)子(す)出(で)つ

山内(さんない) 成(せい)康(こう)

の服(ふく)だの、帽子(ぼうし)だのを使(つか)つたのであらう
から、その姿(すがた)がよく似(に)ているのは当たり
まえだといえればそれまでの話(はなし)。

実は出稼(でかけ)つに行(い)つている主人(しゆじん)を案(あん)じた
り、恋(こい)しく思(おも)つている作品(ぶんぽん)と言(い)えるだ
る。

11号(ごう) 題(だい)吟(ぎん) 「無料(むりょう)(ただだ)」
12号(ごう) 題(だい)吟(ぎん) 「除夜(じゆやく)(としのばん)」
締(しの)き切(きり) 令和元年(れいわげんねん)10月(10がつ)7日(7にち)(火)

選(せん)者(しゃ) 横口(よこぐち) 一(いち)風(ふう)

漢字(かんじ)のわからぬ時は(とき)、カナ(かな)で書(か)い
て応募(おうぼう)ください。選(せん)者が(が)適(ふさ)宜(ぎ)

て応募(おうぼう)ください。

応募先(おうぼうせん) 千八九(せんぱくきゅう)一(いち)〇八四六

鹿児島市加治屋町(かじやまち)三番(さんばん)十号(じゅう)

鹿児島市医師会(かごしましいしかい)鹿児島市医報(かごしましいひょう)編集係(へんしゅき)

T E L (099-226-3737)

F A X (099-225-6099)

E-mail : ihou@city.kagoshima.med.or.jp